お畫かき、お仕事の躾け

附屬幼稚園　上遠文子

「三つ子の魂百までも」と昔から云はれてゐる樣に、幼兒期は私共の長い人生の出發點であり、種々生活の營みが始り、又習慣も作られて行くのであります。それゆゑ、その習慣の好いも、惡いも、私共一生の源となり、第二の天性ともなり、後年をも支配するのであります。かく考へる時、幼兒期の習慣の養成卽ち躾けは非常に大事な事であります。私共は正しく、躾けよき習慣をつける樣考慮したいものであります。今此處に、お畫かきする時、お仕事する時には如何なる躾けをせねばならぬかと考へてみませう。

一、お道具箱を出しにゆく時順序をまもり並びませう。これは一般の躾けですが、引出しを開けたりする時も、人を押しのけてしたり、又、人の頭の上だらうが頓著しないといふ氣持をやめさせ、順序よくならんで出す樣にさせませう。

一、お道具箱は帳面の前にきちんと置き、その時使用する、ものだけその上にのせませう。

お畫かきしてゐる間、お仕事してゐる間、クレヨン、鋏等をそこいらに散らかしてする事はやめさせ、箱の上にきちんとのせてする樣にしませう。これは先生が氣がついた時いつも注意し、なほしてあげる樣にしたいものです。

一、鉛筆は正しく持ちませう。鉛筆に限らず、クレヨンでも正しい持方を敎へたいものです。握つたり、違つた指を用ひたり、又左手で畫いたりするのは、特に念頭において根氣よく注意し完全に治したいものであります。

一、姿勢をよくして畫く事。これは第一に大切な事の一つで、畫く時の姿勢の好し惡しにより體型が定められてしまひ、それにより健康にまで及ぼす事ゆゑ、特に注意していたゞきたい事であります。椅子にたつぷり腰かけ机と眼との間は三十糎の距離を置くのが正しい姿勢で、胴をまげれば背骨がまがり、首を垂れゝば、眼を惡くし、猫背になつてしまひます。自由に型のかはる幼兒ゆゑ、この正しいこの姿勢を常に注意し徹底させて、健全なる體をつくる樣したいものであります。

一、帳面は無駄にせず順々に用ひる樣にしませう。物資

の豐富にある時でも、人は儉約といふ事を考へねばいけません。ましてこの戰時下、一枚の紙も無駄に使つては申譯ない。幼兒にも紙の大事な事をしらせ、書なほしや書損じをしない樣に注意したい。書損じた場合、先生が巧みに厚生させてあげたいものです。又順々に帳面を使ふといふ事も、几張面な氣を養ふにも好い事であります。こんな事は無いと思ふが帳面をやぶいたりするのは斷然やめさせるべきであります。

一、後片づけを忘れぬ樣にしませう。お仕事がすんだ時は帳面、お道具箱は引出しに必ずしまふ樣にしませう。お友達の遊びに夢中になり忘れがちの人は習慣がつくまで、一々呼んで片づけさせる樣にしませう。

一、お仕事で屑は床に捨てぬ樣一定の所に入れませう。切紙の時など、澤山の紙屑が出ますが、お仕事がすんでから自分の圍りの紙屑はひろつて、一定の所へ入れさせる樣にいたしませう。

一、お畫かきの場合、鉛筆、ゴム消は使用しない樣にしたいものです。幼兒期の繪はクレヨン畫です。その場合、下繪を鉛筆でかきますが、これはしない方がよいのではないでせうか、鉛筆を使用すると輪廓は明瞭になり一見、上手にみえますがクレヨン畫の好さが失はれてゐます。クレヨンの太い線はクレヨン畫の特長とも云ふべく、其處に面白さがあるのではないでせうか。それからゴム消でやたらと消す事は、畫面を汚くすると同時に繪が引立ちません、接角の繪もゴム消の使用によりその繪は生氣を失つてしまひます。これはクレヨン畫のみに限つた事ではありません。これらの事は何れも習慣で、なれると何でもなく畫けるものです。

一、お畫かき、お仕事の途中は、用事以外には立あるかぬ事。これは年少組の最初などは望めない事かもしれませんが年長組になつたら徹底させたい事です。お仕事の途中ふらふら他へ遊びに行つたり、すまぬのに他の事をしたりするのはやめさせませう。これにより落着きと忍耐とを養ひたいものです。

一、鉛筆等嚙むのをやめませう。道具類を大切に使ひませう。殆んど此頃はみませんが鉛筆の後を嚙んでしまふ癖は衞生上からいつてもわるい事ですのでやめさせませう。すべてクレヨン、鋏、鉛筆は大切に取扱ふ樣躾け致しませう。

その他精神的方面に、お畫かきする事により、お仕事する事によつて、落着き、努力と忍耐と、几帳面、工夫、等を養ひたいものであります。

幼兒はお畫かきを樂しむ。お仕事を樂しむ。その樂しみを私共で打こわさぬ樣、しかしその躾けの機會を失しない

（二七頁へ）